

ぎふライチョウ保全研究会の設立 絶滅危惧種ライチョウの関心を 岐阜県で高めさらに保全を進める



岐阜大学 応用生物科学部 教授 楠田 哲士
動物園生物学研究センター長

1965年5月10日、岐阜県の県鳥に“ライチョウ”が指定され、2025年で60周年です。文化財保護法で1955年に特別天然記念物に指定されてからも70周年になります。そんな記念すべき今年、日本山岳会岐阜支部と日本野鳥の会岐阜の有志で、ライチョウの保全に関する会を立ち上げたいとの相談を受け、私たち動物保全繁殖学研究室も加わり、「ぎふライチョウ保全研究会」を設立しました。

研究会の活動内容として、①県民を中心としたライチョウに関する普及啓発、②県内の生息数調査、③日本動物園水族館協会との生息域外保全に関する連携、④県内の行政や関係機関との連携・協力などを掲げています。

ライチョウは、本州中部の高山帯に隔離分布し、①頸城山塊、②北アルプス、③乗鞍岳、④御嶽山、⑤南アルプスに生息しています。このうち、岐阜県では飛騨地方の②③④に生息しています。飛騨市、高山市、下呂市が生息市で、生息山岳のほとんどが富山県や長野県との県境に位置することから隣県との連携は非常に重要です。

ライチョウを取り巻く環境は悪化し、推定個体数は1980年代の約3,000羽から、2000年代には2,000羽弱にまで減少しています。2012年に種の保存法に基づく保護増殖事業が開始され、環境省や日本動物園水族館協会等が、生息地での生息域内保全や動物園での生息域外保全、さらに野生復帰を活発に進めています。特に乗鞍岳は有数のライチョウ生息地で、個体数が比較的安定していることから、保全活動の試行の拠点になっています。

Google検索量を指標とした 都道府県ごとのライチョウ関心度

2005～2010	2010～2015	2015～2020	2020～2025
富山県* 100	富山県* 100	富山県* 100	富山県* 100
石川県 52	長野県* 38	長野県* 57	長野県* 81
福井県 45	石川県 33	石川県 25	石川県 28
京都府 22	福井県 27	福井県 18	岐阜県* 27
長野県* 21	島根県 17	山梨県 16	山梨県 25
奈良県 19	滋賀県 16	岐阜県* 15	福井県 20
新潟県 17	奈良県 14	滋賀県 12	東京都 18
大阪府 16	岐阜県* 13	東京都 12	新潟県 17
岐阜県* 16	京都府 13	京都府 12	京都府 16
和歌山県 16	新潟県 12		栃木県 16

1位を100とした場合の相対値。*県鳥に指定している県。

絶滅山岳であった中央アルプスでは、駒ヶ岳での野生復帰事業が2019年から始まり、乗鞍岳は大きな貢献を果たしてきました。野生復帰が順調に進み、中央アルプスは6カ所目の生息域として自立個体群が確立しつつあります。全体的な状況を踏まえ、環境省レッドリストの絶滅危惧カテゴリーが絶滅危惧IB類からII類へ引き下げられる可能性が出てきています。他の山岳の状況も好転し、その先の保護増殖事業の終了へと進展することを願っています。

ライチョウの存在は、豊かな山岳環境があることの象徴でもあります。岐阜県は、北部の飛騨地方と南部の美濃地方で環境が異なり、ライチョウは飛騨地方の一部にしか生息していませんが、県の自然のシンボルとして捉えてほしいと思っています。ライチョウが生息できる飛騨地方の高山環境は、美濃地方に豊富な水と淡水魚などを育み、それが農業や、鵜飼・美濃和紙といった特有の文化を育んできました。ライチョウや高山の生物多様性を保全することは、文化・歴史の多様性を保全することにもつながっているはずです。県を代表する鳥は、鵜飼の鵜でもありライチョウでもあり、それは自然や文化の豊かさの象徴なのです。

岐阜県民のライチョウに対する関心度は、県鳥に指定する3県で比べると、富山県と長野県に比べ非常に低い状況です。しかし、過去5年間ごとで比較すると相対的な関心度は上昇しています。2020年に岐阜大学で誘致した第19回ライチョウ会議ぎふ大会（2日間でのべ500名以上参加）や以降の様々なイベント等が奏功していると信じています。ライチョウのことや岐阜の生物多様性を、県民に広く知っていただけるよう今後も様々な企画を計画していきます。



私が初めて出会った野生のライチョウたち（乗鞍岳、2013年6月）

動物保全繁殖学研究室
<https://www1.gifu-u.ac.jp/~lar/>

